The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	上野修教授　研究業績等一覧
Author(s)	
Citation	メタフュシカ. 2017, 48, p. 3-11
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/67689
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

上野修教授　研究業績等一覧

【著書】

1.	ミシェル・アンリ「精神分析の系譜」	1993年4月	山形頼洋・宮崎隆・中敬夫・松島哲久・野村直正・森藍・池田清との共訳、法政大学出版局、総539ページ（第一章）
2.	哲学者たちは授業中	1997年5月	入江幸男・入不二基義・松葉祥一・大島保彦との共著、ナカニシヤ書店、総225ページ（pp.183-222）
3.	精神の眼は論証そのもの ——デカルト、ホッブズ、スピノザ	1999年3月	学樹書院（単著）、総246ページ
4.	スピノザの世界——神あるいは自然	2005年4月	講談社（単著）、総208ページ
5.	スピノザ——「無神論者」は宗教を肯定できるか	2006年7月	日本放送出版協会（単著）、総107ページ
6.	〈私〉の哲学を哲学する	2010年10月	永井均・入不二基義・青山拓央との共著、講談社、総378ページ（pp.115-152、pp.331-338、pp.368-369）
7.	デカルト、ホッブズ、スピノザ ——哲学する十七世紀	2011年10月	講談社（単著）、総272ページ（著書3の学術文庫化）
8.	哲学者たちのワンダーランド ——様相の十七世紀	2013年11月	講談社（単著）、総288ページ（講談社『本』連載の単行本化）
9.	スピノザ『神学政治論』を読む	2014年6月	筑摩書房（単著）、総309ページ
10.	ライプニッツ著作集第Ⅱ期第1巻　哲学書簡	2015年5月	工作舎（共訳）、総447ページ（pp.76-89、pp.128-129）
11.	主体の論理・概念の倫理	2017年2月	米虫正巳・近藤和敬との共著、以文社、総476ページ（pp.3-9、pp.163-166、pp.215-235、pp.417-452）

【事典類】

1.	哲学基本事典	1992年4月	富士書店、265ページ（24項目執筆）
2.	現代倫理学事典	2006年12月	弘文堂（1項目執筆）
3.	imidas 2005	2005年1月	集英社（1項目執筆）
4.	現代社会学事典	2012年12月	弘文堂（3項目執筆）

【論文】

1.	身体の観念あるいは精神——スピノザにおける精神とその認識の起源的定位	1981年3月	『カルテシアーナ』No.3、pp.1-32
2.	デカルトにおける物体の概念	1982年1月	『待兼山論叢』No.15、pp.1-16
3.	スピノザ『国家論』における《Imperium（統治権ないし国家）》	1983年2月	『関西哲学会紀要』No.17、pp.35-40
4.	「残りの者」——あるいはホッブズ契約説のパラドックスとスピノザ	1988年3月	『カルテシアーナ』No.8、pp.27-62
5.	「われらに似たるもの」——スピノザにおける想像的自我およびその分身と欲望	1989年3月	『カルテシアーナ』No.9、pp.27-49
6.	スピノザの今日、声の彼方へ	1989年4月	『現代思想』Vol.17-4、pp.37-42

7.	無数に異なる同じもの——スピノザの実体論	1990年 3 月	『カルテシアーナ』No.10、pp.31-56
8.	絶対制のシミュラークル ——ホッブズとスピノザの国家論	1990年 5 月	『現代思想』Vol.18-5、pp.74-82
9.	意志・徴そして事後——ホッブズの意志論	1991年 3 月	『カルテシアーナ』No.11、pp.11-27
10.	Spinoza et le paradoxe du contrat social de Hobbes: <le reste>	1991年 4 月	*Cahiers Spinoza*, No.6, pp.269-296
11.	取消し不可能なもの、あるいはホッブズの意志論	1992年10月	『西日本哲学会々報』No.40、pp.1-4
12.	For Spinoza's *Tractatus Politicus*	1992年12月	『山口大学哲学研究』Vol.1、pp.94-101
13.	「精神の眼は論証そのもの」 ——スピノザ『エチカ』における享楽と論証	1994年 9 月	『山口大学哲学研究』Vol.2、pp.81-95
14.	"*Mentis oculi ipsae demonstrationes*: jouissance et démonstration dans *l'Ethique* de Spinoza" in Spinoza: *Puissance et ontology*.	1994	*Actes du Colloque organizé par le Collège International de Philosophie les 13, 14, 15 mai 1993 à la Sorbonne*, Sous la direction de Myriam Revault D'Allonnes et Hadi Rizk, Éditions Kimé, Paris, pp.73-84
15.	スピノザ、あるいは肯定する自然	1995年 4 月	宗像恵、中岡成文編『西洋哲学史〔近代編〕——科学の形成と近代思想の展開』ミネルヴァ書房、pp.51-56
16.	二つの「あたかも」 ——スピノザ『政治論』のために	1995年 5 月	工藤喜作、桜井直文編『スピノザと政治的なもの』平凡社、pp.171-203
17.	スピノザ『神学政治論』の孤独	1995年 5 月	『スピノザ協会会報』
18.	スピノザと敬虔の文法——『神学政治論』の「普遍的信仰の教義」をめぐって	1995年 9 月	『山口大学哲学研究』Vol.4、pp.45-64
19.	スピノザの聖書解釈——神学と哲学の分離と一致	1996年11月	『現代思想』Vol.24-14、pp.122-131
20.	Spinoza's Biblical Interpretation——Theology and Philosophy, Their Separation and Coincidence	1997年 9 月	『山口大学哲学研究』Vol.6、pp.35-51
21.	スピノザの預言論 ——『神学政治論』読解に向けて	1998年 7 月	『批評空間』Ⅱ-18
22.	スピノザの共有信念論——『神学政治論』における「きわめて平凡でありふれたもの」について	1998年11月	『山口大学哲学研究』Vol.7、pp.61-80
23.	アルチュセールとスピノザ	1998年12月	『現代思想』Vol.26-15、pp.213-221
24.	スピノザ『神学政治論』における社会契約と敬虔	1999年 2 月	『山口大学文学会志』No.49、pp.159-172
25.	言語習得における原抑圧と真理 ——デイヴィドソン、ラカン	1999年10月	『山口大学哲学研究』No.8、pp.1-20
26.	"*Res Nobis Similis*: Desire and the Double in Spinoz" in *Spinoza by 2000, The Jerusalem Conferences, Volume III, Desire and Affect: Spinoza as Psychologist*	1999	*Papers Presented at The Third Jerusalem Conference (Ethica III)*, edited by Yirmiyahu Yovel, Little Room Press, New York, pp.81-91
27.	スピノザの奇蹟迷信論	2000年12月	『スピノザーナ』No.2、pp.3-15
28.	On the 'Credo Minimum' in Spinoza's *Tractatus Theologico-Politicus*	2001年10月	『山口大学哲学研究』Vol.10、pp.47-74
29.	意志と意図、あるいは責務の時間	2003年 2 月	『山口大学文学会志』No.53、pp.89-97
30.	スピノザと真理の規範	2003年 9 月	『フランス哲学・思想研究』No.8、pp.81-93
31.	コギトの確実性——様相の観点から——	2004年12月	『メタフュシカ』No.35、pp.1-12
32.	必然、永遠、そして現実性 ——スピノザの必然主義	2005年 3 月	『スピノザーナ』No.6、pp.5-21

33.	スピノザと真理	2005年 6 月	村上勝三編『真理の探究――17 世紀合理主義の射程』知泉書館、pp.155-178
34.	The Certainty of the Cogito: A Modal Perspective	2006年 3 月	*Philosophia OSAKA*, No.1, pp.1-12
35.	現実性と必然性 ――スピノザを様相的観点から読み直す	2006年 4 月	『哲学』No.57、pp.77-92
36.	隠蔽し誘惑するインターフェイス	2007年 1 月	『大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」研究報告書 2004-2006：第 1 巻　岐路に立つ人文学』pp.209-222
37.	Spinoza on Prophetic Certainty	2007年 3 月	*Philosophia OSAKA*, No.2, pp.63-83
38.	意味と出来事と永遠と ――ドゥルーズ『意味の論理学』から	2008年 1 月	鈴木泉、小泉義之、檜垣立哉編『ドゥルーズ／ガタリの現在』平凡社、pp.20-40
39.	スピノザと群集の声	2008年 1 月	『現代思想』Vol.36-1、pp.175-185
40.	スピノザと聖なるテクスト	2008年 3 月	飯倉洋一編『テクストの生成と変容』（研究報告）、大阪大学大学院文学研究科、pp.41-44
41.	Actuality and Necessity; Rereading Spinoza from a Modal Perspective	2008年 3 月	*Philosophia OSAKA*, No.3, pp.25-36
42.	出来事の時間 ――ドゥルーズ的コンセプト――	2008年 3 月	『時間学研究』Vol.2、pp.37-44
43.	ホイエルをめぐる三人の人物とスピノザ	2008年 9 月	『スピノザーナ』No.9、pp.76-82
44.	The Social Contract in Spinoza's *Tractatus Theologico-Politicus*	2009年 3 月	*Philosophia OSAKA*, No.4, pp.55-67
45.	ライプニッツとスピノザ ――現実性をめぐって――	2009年 5 月	『哲学の探究』No.36、pp.5-21
46.	現実指標としての〈私〉――永井均『私・今・そして神』講談社現代新書，2004 を中心に	2009年 6 月	『〈私〉の言語論的存立構造の哲学的研究』（研究報告書）、pp.29-32
47.	ネグリのスピノザ解釈	2009年 7 月	『情況』Vol.3、No.86、pp.164-170
48.	スピノザの群集概念にみる転覆性について	2009年 8 月	『思想』No.1024、pp.102-116
49.	Spinoza on Miracles and Superstition	2010年 3 月	*Philosophia OSAKA*, No.5, pp.67-78
50.	世界の底が抜けたとき（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 1）	2010年 7 月	『本』講談社、No.408、pp.2-6（2 段組）
51.	確実性に取り憑かれて――デカルト（一）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 2）	2010年 8 月	『本』講談社、No.409、pp.2-6（2 段組）
52.	不可能に出会うこと――デカルト（二）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 3）	2010年 9 月	『本』講談社、No.410、pp.2-6（2 段組）
53.	私はある、私は存在する――デカルト（三）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 4）	2010年10月	『本』講談社、No.411、pp.2-6（2 段組）
54.	無根拠の支えとしての神――デカルト（四）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 5）	2010年11月	『本』講談社、No.412、pp.2-6（2 段組）
55.	心身問題とその彼方――デカルト（五）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 6）	2010年12月	『本』講談社、No.413、pp.2-6（2 段組）
56.	光がそれ自身と闇とを顕わすように――スピノザ（一）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 7）	2011年 1 月	『本』講談社、No.414、pp.2-6（2 段組）
57.	「現実」を作ってみる――スピノザ（二）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 8）	2011年 2 月	『本』講談社、No.415、pp.2-6（2 段組）

58.	私ではなく神が…――スピノザ（三）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 9）	2011年 3 月	『本』講談社、No.416、pp.2-6（2 段組）
59.	精神は自分の外にいる――スピノザ（四）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 10）	2011年 4 月	『本』講談社、No.417、pp.2-6（2 段組）
60.	証明の秘儀――スピノザ（五）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 11）	2011年 5 月	『本』講談社、No.418、pp.2-6（2 段組）
61.	敬虔なるマキャベリスト――スピノザ（六）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 12）	2011年 6 月	『本』講談社、No.419、pp.2-6（2 段組）
62.	国家論へ――ホッブズとスピノザ（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 13）	2011年 7 月	『本』講談社、No.420、pp.2-6（2 段組）
63.	哲学はシミュレーション――ホッブズ（一）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 14）	2011年 8 月	『本』講談社、No.421、pp.2-6（2 段組）
64.	意志がなかったとは言わせない――ホッブズ（二）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 15）	2011年 9 月	『本』講談社、No.422、pp.2-6（2 段組）
65.	契約説のパラドックス――ホッブズ（三）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 16）	2011年10月	『本』講談社、No.423、pp.2-6（2 段組）
66.	決定論の彼方、自由としての必然 ――スピノザの場合（後日考を付す）	2011年10月	『西日本哲学会年報』No.19、pp.145-160
67.	約束という暴力――ホッブズ（四）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 17）	2011年11月	『本』講談社、No.424、pp.2-6（2 段組）
68.	ふたたびホッブズとスピノザ（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 18）	2011年12月	『本』講談社、No.425、pp.2-6（2 段組）
69.	ライプニッツ、あるいは世界の修復（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 19）	2012年 1 月	『本』講談社、No.426、pp.2-6（2 段組）
70.	スピノザの崖っぷちから引き返す――ライプニッツ（一）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 20）	2012年 2 月	『本』講談社、No.427、pp.2-6（2 段組）
71.	世界の奥行きを創出する――ライプニッツ（二）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 21）	2012年 3 月	『本』講談社、No.428、pp.2-6（2 段組）
72.	ここが最善世界であるかのように――ライプニッツ（三）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 22）	2012年 4 月	『本』講談社、No.429、pp.2-6（2 段組）
73.	連続体の迷宮――ライプニッツ（四）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 23）	2012年 5 月	『本』講談社、No.430、pp.2-6（2 段組）
74.	魂の深さ、世界の深さ――ライプニッツ（五）（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド 24）	2012年 6 月	『本』講談社、No.431、pp.2-6（2 段組）
75.	ホッブズとスピノザ ――われわれは自分の外にいる	2012年 6 月	神崎繁、熊野純彦、鈴木泉編『西洋哲学史Ⅲ「ポスト・モダン」のまえに』講談社、pp.195-252
76.	十七世紀は終わらない（様相の十七世紀――哲学史のワンダーランド最終回）	2012年 7 月	『本』講談社、No.432、pp.2-6（2 段組）
77.	スピノザ『エチカ』の〈定義〉	2012年 7 月	『アルケー』No.20、pp.42-53
78.	スピノザとライプニッツ ――世界の不透明性について	2012年10月	酒井潔、佐々木能章、長綱啓典編『ライプニッツ読本』法政大学出版局、pp.208-218
79.	真理と直観 ――永遠の相のもとに	2012年11月	西日本哲学会編『哲学の挑戦』春風社、pp.39-69
80.	デカルトは矛盾しているか？ ――心身の実体的区別と合一――	2012年12月	『待兼山論叢』No.46、pp.1-18

81.	真理・意味・主体 ――デイヴィドソンの根元的解釈とラカン	2012年12月	『ジャック・ラカン研究』No.9/10、pp.214-235
82.	まなざしなき無限、記憶なき永遠 ――スピノザの奇妙な形而上学	2014年 4 月	『哲学』No.65、pp.56-72
83.	虚軸としてのスピノザ、あるいは石像の宴	2014年 4 月	『思想』No.1080、pp.80-94
84.	Ordinary and Usual Things, or Common Belief in Spinoza's *Tractatus Theologico-Politicus*	2015年 3 月	*Philosophia OSAKA*, No.10, pp.27-37
85.	アンリとスピノザ、その近さと遠さ	2015年 5 月	上野修『ミシェル・アンリ研究』No.5、pp.1-13
86.	Are the Real Distinction and the Substantial Union of Mind and Body in Descartes in Contradiction?	2016年 3 月	*Philosophia OSAKA*, No.11, pp.55-62
87.	スピノザの存在論的実在論	2016年12月	『メタフュシカ』No.47、pp.1-10

【書評】

1.	Ｇ・ドゥルーズ著『スピノザと表現の問題』	1992年 1 月	『週刊読書人』No.1918、p.3
2.	"Book Review: Pierre-François Moreau, *Spinoza. L'expérience et l'éternité*. Paris, Presses Universitaires de France, 1994", *Geschiedenis documentatieblad van de werkgroep "Sassen": Wijsbegeerte in Nederland: De Wijsbegeerte van het fin de siecle.*	1995年12月	*Jaargang 6 dubbelnummer 1995*, pp.230-231
3.	エマニュエル・レヴィナス著『聖句の彼方――タルムード――読解と講演』	1996年 4 月	『週刊読書人』No.2130
4.	Spinoza Scholarship in Japan: Spinoza to seiji-teki na mono (Spinoza and the Political), Heibon-sha, Tokyo, 1995	1996年12月	*Studia Spinozana*, Vol.10, pp.387-392
5.	イルミヤフ・ヨベル著『スピノザ　異端の系譜』	1998年 7 月	『週刊読書人』No.2244、p.4
6.	アルチュセール『哲学・政治著作集』	2000年 3 月	『思想』No.909、pp.94-98
7.	佐藤拓司著『堕天使の倫理――スピノザとサド』（東信堂）	2003年 9 月	『フランス哲学・思想研究』No.8、pp.178-182
8.	佐藤一郎著『個と無限――スピノザ雑考』	2005年 8 月	『フランス哲学・思想研究』No.10、pp.218-221
9.	小泉義之著『病の哲学』（筑摩書房、2006）	2007年 8 月	『フランス哲学・思想研究』No.12、pp.177-179
10.	Osamu Ueno on Balibar: Spinoza: From Individuality to Transindividuality	2008年12月	*Studia Spinozana*, vol.16, pp.278-280
11.	アントニオ･ネグリ著、杉村昌昭･信友建志訳『野生のアノマリー――スピノザにおける力能と権力』	2009年 2 月	『図書新聞』No.2904
12.	福岡安都子『国家・教会・自由――スピノザとホッブズの旧約テクスト解釈をめぐる対抗』	2010年 3 月	『法制史研究』Vol.59、pp.384-388
13.	手島勲矢『ユダヤの聖書解釈――スピノザと歴史批判の転回』	2010年 7 月	『図書新聞』No.2976
14.	国家を制作するのはだれか――川添美央子著『ホッブズ　人為と自然』を読む――	2010年 8 月	『創文』No.533、pp.23-26
15.	國分功一郎『スピノザの方法』	2011年 7 月	『思想』No.1047、pp.105-110
16.	アルフォンソ・カリオラート著『神の身振り――スピノザ『エチカ』における場について』	2013年 8 月	『図書新聞』No.3124、p.4

17.	朝倉友海『概念と個別性――スピノザ哲学研究』	2013年 9 月	『フランス哲学・思想研究』No.18、pp.194-197

【その他】

1.	スピノザ	1990年 1 月	『理想』No.645、pp.66-67
2.	ミスライ	1990年 1 月	『理想』No.645、pp.94
3.	実体の眩暈――スピノザの絶対実体	1990年 3 月	『スピノザ協会会報』No.1、p.1
4.	イスラエルのスピノザ	1991年 8 月	『週刊読書人』No.1897、p.3
5.	The Symposium in Japan	1994年 6 月	*Studia Spinozana*, vol.8(1992), pp.317-320
6.	亡びについて	1999年 1 月	『スピノザーナ』No.1、pp.70-71
7.	スピノザとフィジックなもの(小泉義之との対談)	2000年 3 月	『批評空間』2000Ⅱ-25、pp.196-220
8.	デカルトの〈コギト〉と死生観	2001年 4 月	『異文化交流研究施設ニューズレター』山口大学人文学部、No.2
9.	近代西洋哲学と死	2002年 4 月	『異文化交流研究施設ニューズレター』山口大学人文学部、No.3、pp.2-5
10.	明確に科学認識論的な『知性改善論』理解	2003年 3 月	『スピノザーナ』No.4、pp.39-41
11.	ホッブズを超えて ――力と恐怖の論理（岩崎稔との対談）	2003年12月	『現代思想』vol.31-15、pp.24-41
12.	私の存在は偶然か	2004年 3 月	『異文化交流研究施設ニューズレター』山口大学人文学部、No.5、pp.5-6
13.	（ブックガイド）『エチカ』	2004年 9 月	『現代思想』vol.32-11、pp.48-51
14.	スピノザから見える不思議な光景	2005年 4 月	『本』講談社、No.346、pp.22-24
15.	二〇〇五年読書アンケート	2006年 2 月	『みすず』Vol.48、No.1、p.84
16.	二〇〇六年読書アンケート	2007年 2 月	『みすず』Vol.49、No.1、p.57
17.	読み終えた気がしない	2008年 8 月	内山勝利、小林道夫、中川純男、松永澄夫編『哲学の歴史　別巻　哲学と哲学史』中央公論新社、p.469
18.	発想の転換の哲学　スピノザ	2010年 9 月	『阪大ニューズレター』No.49、p.20
19.	ヴェイユとスピノザ――酷薄の哲学のための覚書	2012年11月	『季報唯物論研究』No.121、pp.10-15
20.	思想の言葉　スピノザの文体	2014年 4 月	『思想』No.1080、pp.3-6
21.	座談会　虚軸としてのスピノザ（1）近世と現代	2014年 4 月	『思想』No.1080、pp.7-44
22.	座談会　虚軸としてのスピノザ（2）ドイツ観念論とその後	2014年 4 月	『思想』No.1080、pp.45-79

【口頭発表】

1.	デカルトにおける物体の実在性	1979年 7 月	フランス哲学研究会（大阪大学）
2.	スピノザ『国家論』における《Imperium（統治権ないし国家）》	1982年10月	関西哲学会第 35 回大会個人研究発表（大阪市立大学）
3.	ホッブズ国家契約説とスピノザ	1987年12月	フランス哲学研究会（大阪大学）
4.	ホッブズとスピノザにおける国家	1990年 5 月	第 1 回スピノザ協会（明治大学）

5.	Substance et différence chez Spinoza	1990年 9 月	XXIIIe Congrès International des Sociétés de Philosophie de Langue Française, (Tunis)
6.	“<Res Nobis Simils>: Desire and the Double in Spinoza”, Spinoza by 2000	1991年 5 月	The Jerusalem Conferences; Third Conference; Ethica III: Spinoza as Psychologist, (Jerusalem)
7.	ふたつの「あたかも」 ——スピノザの政治論のために	1991年 7 月	第 1 回社会哲学研究会（大阪大学）
8.	For Spinoza's Tractatus Politicus	1991年11月	SYMPOSIUM: SPINOZA AND THE POLITICAL（成蹊大学）
9.	取消し不可能なもの、あるいはホッブズの意志論	1991年12月	西日本哲学会第 42 回大会（佐賀大学）
10.	スピノザにおける聖書解釈と政治的なるもの	1993年 4 月	日仏哲学会 1993 年春のシンポジウム
11.	“Mentis oculi ipsae demonstrations”, Spinoza: Puissance et Ontologie	1993年 5 月	Colloque organisé par le Collège International de Philosophie (le Collège International de Philosophie, Paris)
12.	スピノザ『神学政治論』における聖書解釈	1993年 7 月	第 12 回社会哲学研究会（大阪大学）
13.	The Logic of the Rest	1994年12月	Workshop at the Frij Universiteit Amsterdam
14.	スピノザ『神学政治論』の孤独	1995年 3 月	スピノザ協会第 6 回総会講演（東洋大学）
15.	『神学政治論』をめぐって	1996年 5 月	法律学と社会哲学の交錯（姫路獨協大学）
16.	『神学政治論』における神学と哲学	1996年11月	スピノザ協会第 2 回シンポジウム《スピノザと宗教》（明治大学）
17.	シニフィアンと主体 ——メディア論のラカン的展開のために	1997年 4 月	第 38 回社会哲学研究会（大阪大学）
18.	真理と主体——デイヴィドソン、ラカン	1999年 3 月	第 53 回社会哲学研究会（大阪大学）
19.	スピノザの奇跡迷信論	1999年 9 月	スピノザ協会第 23 回研究会（京大会館）
20.	事後性の時間論	2001年10月	山口大学時間学研究所時間学基礎セミナー（山口大学）
21.	スピノザの真理	2002年 9 月	日仏哲学会 2002 年秋季研究大会（法政大学）
22.	スピノザによる魂の作り方	2003年11月	「計算の哲学」プロジェクト主催ワークショップ「計算・生命・時間」（山口大学）
23.	必然、永遠、そして現実性	2004年 3 月	スピノザ協会第 15 回総会講演（東京大学）
24.	教育の心理学化と「未来学力」	2004年 3 月	「未来学力」研究ワークショップ（山口大学）
25.	Faith and Reason in Spinoza's *Tractatus Theologico-Politicus*	2005年 3 月	XIXth World Congress of the International Association for the History of Religions (IAHR) in Tokyo（高輪プリンスホテル）
26.	佐藤一郎著『個と無限　スピノザ雑考』合評	2005年 7 月	スピノザ協会第 39 回研究会（山梨大学）
27.	上野修『スピノザの世界　神あるいは自然』（講談社現代新書）の合評を受けて	2005年 7 月	handai metaphysica 研究例会（大阪大学）
28.	上野修著『スピノザの世界——神あるいは自然』合評を受けて	2006年 1 月	スピノザ協会第 41 回研究会（東京大学）
29.	現実性と必然性 ——スピノザを様相的観点から読み直す	2006年 5 月	第 65 回日本哲学会大会共同討議（東北大学）
30.	ドゥルーズ『意味の論理学』は何をしているのか	2006年 7 月	ドゥルーズ研究会（立命館大学）
31.	「無神論者」スピノザの聖書解釈	2006年12月	大阪大学大学院文学研究科広域文化表現論講座共同研究（2005 年度−2007 年度）「テクストの生成と変容」第 9 回研究会（大阪大学）

32.	出来事の時間 ――ドゥルーズの『意味の論理学』から	2007年 3 月	山口大学時間学研究所理論的時間研究部門基礎論セミナー #3（山口大学）
33.	杉山直樹『ベルクソン　聴診する経験論』（創文社）への特定質問	2007年 3 月	第 21 回ベルクソン哲学研究会（大阪大学中之島センター）
34.	ホイエルをめぐる三人の人物とスピノザ		スピノザ協会第 18 回総会公演ミニ・シンポジウム「17 世紀人文学とスピノザ」（東京大学）
35.	主体の開設と出来事	2007年 8 月	〈私〉の言語論的存立構造の哲学的研究 2007 年度夏の山口ワークショップ（山口大学）
36.	スピノザと心理学 ――彼らは身体に何ができるか知らない	2008年 5 月	日本認知科学会分科会「教育環境のデザイン」（慶応義塾大学）
37.	ライプニッツとスピノザ ――現実性をめぐって――	2008年 7 月	2008 年度哲学若手研究者フォーラム（国立オリンピック記念青少年総合センター）
38.	〈私〉とは何か――永井均に聞く	2009年 3 月	科学研究費補助金基盤研究（C）、〈私〉の言語論的存立構造の哲学的研究シンポジウム（大阪大学）
39.	真理と主体 ――デイヴィドソンの根元的解釈とラカン	2010年10月	日本ラカン協会第 10 回ワークショップ「後期ラカンへのアプローチ」（専修大学）
40.	決定論の彼方、自由としての必然 ――スピノザの場合	2010年12月	西日本哲学会第 61 回大会シンポジウム「可能的なものの実在的なもの――自由とはなにか」（鹿児島大学）
41.	『〈私〉の哲学を哲学する』（講談社 2010）合評を受けて	2011年 7 月	Cogito 研究会（東京大学）
42.	『VOL05　エピステモロジー：知の未来のために』以文社、2011 へのコメント	2011年 8 月	大阪大学最先端ときめき研究推進事業バイオサイエンスの時代における人間の未来第 19 回ときめき☆セミナー（大阪大学）
43.	スピノザ『エチカ』の「定義」	2011年10月	関西哲学会第 64 回大会（龍谷大学）
44.	Okay, I'll be Part of This World ――可能なき世界とスピノザ的自由	2011年11月	ICU 哲学研究会第 4 回研究会（国際基督教大学）
45.	ラカンのスピノザ（予備的考察）	2013年12月	科研「フランス・エピステモロジーの伏流としてのスピノザ」第 1 回研究会（大阪大学）
46.	まなざしなき無限、記憶なき永遠 ――スピノザの奇妙な形而上学	2014年 6 月	日本哲学会第 73 回大会学協会シンポジウム「スピノザとライプニッツ」（北海道大学）
47.	身体の真理としての魂――アンリとスピノザ	2014年 6 月	日本ミシェル・アンリ哲学会第 6 回研究大会（成城大学）
48.	スピノザの幾何学的証明について	2014年 7 月	科研「フランス・エピステモロジーの伏流としてのスピノサ」第 3 回研究会（大阪大学）
49.	The Infinite without View, Eternity without Memory: Spinoza contrasted with Leibniz	2014年11月	De Vereniging het Spinozahuis, (Reijnsburg)
50.	実在論の極北、スピノザ	2015年 6 月	学習院哲学会講演会（学習院大学）
51.	『エチカ』の存在論論的実在論	2015年 7 月	東北大学哲学文学部文学研究科集中講義講演会（東北大学）
52.	スピノザ『政治論』翻訳をめぐって ――“jus” をめぐる若干込み入った事情	2015年10月	スピノザ協会第 64 研究会（大阪大学）
53.	ドゥルーズとデリダ・ワークショップ 動物／精神	2015年12月	ドゥルーズとデリダ：脱構築研究会×ドゥルーズ科研共同ワークショップ（グランフロント大阪）

54.	Are the Real Distinction and the Substantial Union of Mind and Body in Descartes in Contradiction?	2016年 7 月	Chulalongkorn University-Osaka University International Joint Conference: Frontiers of Philosophical Investigation in Asia (Chulalongkorn University, Bangkok),
55.	共同討議：現実性をめぐって ――トマスとスピノザ（上枝美典との共同討議）	2016年10月	関西哲学会第 69 回大会共同討議（大阪大学）